

地域連携推進会議議事録

- 1 日 時 令和 7 年 9 月 13 日(土) 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分
- 2 場 所 播磨福祉事業館 日中活動室
- 3 出席者 姫路市担当 2 名、地域関係者 1 名、福祉知見者 1 名、経営知見者 1 名
利用者家族 1 名、利用者 1 名
- 4 次 第
1. 会議趣旨説明
 2. 構成員紹介
 3. 播磨福祉事業館概要説明
 4. 運営状況・活動状況等説明
 5. 施設内見学
 6. 意見交換
 7. 地域と施設の関係性、今後の展開について
- 5 進 行 足立館長
- 6 議事録作成者 河岸(事務局)

7 開 会

足立館長より開会のあいさつがあり、以降資料に沿って以下のとおり説明等があった。

8 顛 末

- (1) 会議趣旨説明について、会議資料により足立館長が、以下のとおり説明を行った。

会議の目的・役割について、利用者と地域との関係づくり、地域の人への施設や利用者に関する理解の促進、施設やサービスの透明性・質の確保を目指し、利用者の権利擁護の取り組みを知ってもらうために開催すること。

また、構成員との情報共有・意見交換のため、職員や利用者との関係づくり・事業所の環境や事業運営の説明を行うこと。

- (2) 構成員紹介について、足立館長より

地域関係者：広坂自治会代表
福祉知見者：姫路学園 主任
経営知見者：当法人監事
利用者家族：入所者家族
利 用 者：利用者代表
市町村担当：姫路市障害福祉課
播磨福祉事業館館長：足立
事務局：支援担当 鎌田、会計担当 山本、書記 河岸

が紹介され、自己紹介を行った。

- (3) 播磨福祉事業館概要説明について、足立館長が、
会議資料により、定員、年齢別利用者数、入所期間、支援区分、障害起因、行事の概要説明を行った。
- (4) 運営状況・活動状況等について、鎌田主査より活動状況として以下のとおり説明があっ

た。

日中は生産活動で割りばしの袋入れ、名札のインク入れ、シール貼りを行っていること。また、創作活動で壁面飾りや作品展に出展する作品作りをしていること。

年間行事として、新年会、鍋パーティー等食事を伴ったイベント、日帰り旅行、地域交流行事、青空喫茶、外食デー、衣類の出張販売等ほぼ毎月行事を行っていること。

日課として、起床から夕食までの時間、入浴日、休日状況は個々で時間を楽しんでいること、長期休暇の時には DVD 鑑賞会などを行っていること。

また、事故、苦情について多くはないが数件あること。

引き続き山本主任より、運営状況として以下の説明があった。

財務三表について、資金収支計算書は一定期間における運転資金の増減とその要因を表していること、事業活動計算書は企業会計における損益計算書に相当すること、貸借対照表は財産状況を表していること。

資金収支について、入所者が減り、収入面が厳しい状況だったが、報酬改定、市による物価高対策の給付金、寄付金等がありプラスであったこと。また、施設建て替えを行った 2016 年の翌年以降 8 年連続でプラスであること。

事業活動について、報酬改定等により増収となったが、最低賃金引き上げ、利用者の高齢化、消耗品・光熱水費値上げ、給食業務委託費値上げ等の要因により、事務費、事業費が増加し、減価償却費の影響もあり損益は赤字であったこと。また、委託費を含んだ人件費率が 70% で現時点では問題ないが、これ以上上昇をした場合は赤字拡大の恐れがあるため注視が必要であること。

貸借対照表について、現預金が直近 3 年間で 1300 万程増加していること。

近年物価高騰などにより厳しい状況であるが、手元資金は積み上がっており、大規模修繕等あった場合でも対応は可能であること、建て替え時の借入返済が 2036 年まで続くが、返済が終われば年間 800 万程の収支改善、10 年後には現職員が年齢要件により昇給停止となる者が多くおり、人件費上昇ペースが落ち着いてくることによる収支改善が見込まれていること。また、稼働率向上、利用者処遇を悪化させない範囲での経費削減などに取り組んでいくこと。

(5) 施設内見学について、利用者代表の案内により見学を行った。

(6) 見学を終えての意見交換として、以下のとおりの意見等があった。

質問

Q. 休日の余暇は提供しているのか。

A. 連休の時は DVD 鑑賞などを提供しているが、基本は個々でテレビや、スマホ等で動画を見たり、ゲームをしたりして余暇を過ごされている。

Q. 家族会はあるのか。

A. 家族会はない、開設当初県外からの入所者が多く面会なども少なかった。代わりに以前は利用者のみで構成されている自治会があったが高齢化してきたため解散している。

Q. 利用者からの意見はどのよう聞いているのか。

A. 毎月、全体での利用者懇談会と、少人数（7～8 名）に分かれてのグループ研修会を開催しており、利用者からの意見・要望を聞いたり職員との意見交換を行っている。

Q. 現在定員を満たしていないが待機者はいるのか。

A. 待機者はいない。問い合わせ、見学はあるが短期入所であったり、グループホームを選ばれたりすることが多く入所につながらない。また、体験利用等しても保護者との在宅生活が長く、集団生活に抵抗がありなじめず入所に至らないこともある。

Q. お小遣いに上限はあるのか。また、スマホ・PCのトラブルはあるのか。

A. 上限は設けていない。スマホ等で出会い系詐欺、ロマンス詐欺に遭いそうになったケースがある。幸いどちらも早期発見できたため事前に食い止めることができた。

感想

- ・知的障害施設とは雰囲気が違いとても静かである。
- ・施設の使い方がよく、建て替えて10年程だが綺麗である。
- ・市内9施設あるが、当施設が一番地域との交流が多い。
- ・建て替えを行ったが運営状況が安定している。

(7) 地域と施設の関係性、今後の展開について、足立館長より以下のとおり説明された。

来年度より利用者一人ひとりの意向確認が始まることになっており、地域移行や他事業所へ行くことを希望される利用者が増えることが予測されていること。実際に他事業所の通所リハビリを希望され通われている方がいること。

地域、他事業者との関係を強化するために、当施設からの情報発信を強化していくこと。